

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人 京都外国語大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	英米語学科	夜・通信	240 時間	160 時間	
	中国語学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	韓国・朝鮮語学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	東南アジア言語学科	夜・通信	240 時間	160 時間	
	日本語コミュニケーション学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	日本語コミュニケーション学科 (留学生)	夜・通信	180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校のホームページに公表している。 https://kccfl.kufs.ac.jp/school_info01/information/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人 京都外国語大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学のホームページに公表している。
<https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/officer.pdf?220620>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	財団法人理事（前職）	2020年4月 3日～ 2024年3月 31日	国際交流
非常勤	弁護士（現職）	2020年4月 1日～ 2024年3月 31日	コンプライアンス
非常勤	株式会社顧問（前職）	2020年4月 1日～ 2024年3月 31日	渉外
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人 京都外国語大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各授業担当教員へのシラバス作成依頼時(毎年2月)に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本校のホームページに公表している。 https://kccfl.kufs.ac.jp/school_info01/information/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスで記載した評価方法に基づいて厳正かつ公平に評価するよう、授業科目担当者に年度初めに実施する全体講師会において「評価の方法」「成績評価の基準及び評価点など」について記した「出講案内」を配布して周知徹底している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>2019 年度より成績評価においてG P A制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。</p> <p>A⁺ (100-90) : 4 ポイント A (89-80) : 3 ポイント B (79-70) : 2 ポイント C (69-60) : 1 ポイント D (59-0) : 0 ポイント F : 失格</p> $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ <p>また、学内においては、GPA を、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生に配布する「学生便覧」及び授業科目担当者に配布する「出講案内」で公表。また、HP 上の「情報ライブラリー」の「自己点検評価報告書」に公表している。</p> <p>https://kccfl.kufs.ac.jp/school_info01/information/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定方針は、ディプロマポリシーとして策定している。</p> <p>毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。卒業するためには、各群(専攻語学群・専攻教養群・第二外国語群・一般教養科目群・マルチメディア科目群)に分かれているが、それぞれ所定の単位時間数を取得し、総計 1,845 時間以上で卒業、1 年次の必須科目のうち不合格科目が 4 科目(120 時間)以内であれば進級できる。所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>学生に配布する「学生便覧」及び授業科目担当者に配布する「出講案内」で公表。また HP 上の「情報ライブラリー」の「自己点検評価報告書」に公表している。</p> <p>https://kccfl.kufs.ac.jp/school_info01/information/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人 京都外国語大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/2021finance.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/2021finance.pdf
財産目録	https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/2021inventory.pdf
事業報告書	https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/2021report.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/2021audit.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	英米語学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1845 単位時間/単位	465 単位時間 /単位以上	1380 単位時間 /単位以上	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
	1845 単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		187人	0人	4人	22人	26人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校の英米語学科は2年間の学習課程をカリキュラムとして編成し、1年次2年次の学習内容に科目としてバランスよく配分している。各科目の授業方針や内容、年間の授業計画は各授業担当教員が、年度初めにシラバスとして作成して、4月上旬にポータルサイトに公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。 算出方法は以下の通り。 A⁺ (100-90) 4ポイント A (89-80) 3ポイント B (79-70) 2ポイント C (69-60) 1ポイント D (59-0) 0ポイント F:失格</p> $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ <p>また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>Career Studiesの授業で学生の学習目標および到達度を、担当教員が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
131人 (100%)	90人 (68.7%)	26人 (19.8%)	15人 (11.5%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>エースホテル京都、株式会社プリンスホテル、JR九州ホテルズ株式会社、東急リゾート&ステイ株式会社、京都市交通局、株式会社日本トラフィックサービス、ロングライフグループ、POLA、株式会社泰和、株式会社バイオテクノロジービューティ、株式会社小西産業、学校法人住吉学園 奈良認定こども園学園前学園、株式会社エルアイシー、株式会社近住ホールディングス・株式会社 PIKO・株式会社 IDD、株式会社キタコ、株式会社バロックバイリミテッドジャパン・株式会社グロップジョイ関西ベストフーズ株式会社・日本マニファクチュアリングサービス株式会社、株式会社ヒューマンアイズ</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために1年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>（令和3年度卒業者に関する令和4年3月31日時点の情報）</p> <p>TOEIC600点以上取得者 63名（1年 23名、2年 40名）</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>英米語学科における編入先は、私立大学では京都外国語大学、関西外国語大学、龍谷大学、佛教大学、日本大学、平安女学院大学、大谷大学、阪南大学、追手門学院手大学、大阪学院大学、大阪経済法科大学、四天王寺大学、神戸国際大学、国公立大学では、大阪市立大学、三重大学、群馬県立女子大学などの語学系・国際系学部等となっている。</p>			
中途退学の現状			
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率	
268人	13人	4.9%	
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>進路変更（就職）、進路変更（進学）、成績不良など。</p>			
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>カウンセリングルームを設置し、毎週カウンセラーによるカウンセリングを行っている。また、学習面においては、担当教員が「Career Studies」の時間を通して、サポートしている。さらに、単位取得状況や出席状況が芳しくない学生には教員面接を随時実施、必要に応じて保護者も含め、三者面接を実施して家庭とも連携して対応している。出席や成績などはポータルサイトを通して保護者にも確認してもらっている。</p>			

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	中国語学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 1845 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年			465 単位時間 /単位以 上	1380 単位時間 /単位以 上	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1845 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		29人	0人	2人	8人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業担当教員へのシラバス作成依頼時（毎年2月）に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。</p> <p>A⁺（100-90）4ポイント A（89-80）3ポイント B（79-70）2ポイント C（69-60）1ポイント D（59-0）0ポイント F：失格</p> $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ <p>また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。</p> <p>所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>Career Studiesの授業で学生の学習目標および到達度を、担当教員が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24人 (100%)	16人 (66.7%)	3人 (12.5%)	5人 (20.8%)
<p>（主な就職、業界等） ヤマト運輸株式会社、株式会社フェイスグループ、日本マニファクチャリングサービス株式会社</p>			
<p>（就職指導内容） 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために1年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） （令和3年度卒業生に関する令和4年3月31日時点の情報） HSK3級取得者 2名、HSK4級取得者 10名、HSK5級取得者 4名、HSK6級取得者 1名</p>			
<p>（備考）（任意記載事項） 中国語学科においては、大学3年次に編入する卒業生が7割以上を占めている。主な進学先としては、京都外国語大学、関西外国語大学、佛教大学、平安女学院大学、京都ノートルダム女子大学などがある。編入留学先としては、広東外語外貿大学、北京第二外国語学院がある。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46人	4人	8.7%
<p>（中途退学の主な理由） 学校生活不適応、進路変更（就職）、進路変更（進学）など。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルームを設置し、毎週カウンセラーによるカウンセリングを行っている。また、学習面においては、担当教員が「Career Studies」の時間を通して、サポートしている。さらに、単位取得状況や出席状況が芳しくない学生には教員面接を随時実施、必要に応じて保護者も含め、三者面接を実施して家庭とも連携して対応している。出席や成績などはポータルサイトを通して保護者にも確認してもらっている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	韓国・朝鮮語学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1845 単位時間/単位	465 単位時間/単位以上	1380 単位時間/単位以上			
			1845 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	76人	0人	2人	11人	13人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業担当教員へのシラバス作成依頼時 (毎年2月) に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。
成績評価の基準・方法
(概要) 2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。 算出方法は以下の通り。 A ⁺ (100-90) 4ポイント A (89-80) 3ポイント B (79-70) 2ポイント C (69-60) 1ポイント D (59-0) 0ポイント F : 失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。
学修支援等
(概要) Career Studiesの授業で学生の学習目標および到達度を、担当教員が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44人 (100%)	18人 (40.9%)	17人 (38.6%)	9人 (20.5%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>株式会社トヨタレンタリース京都、JR 九州ホテルズ株式会社、関西航空サービス株式会社、平和堂、株式会社日本トラフィックサービス、株式会社湯元館、日本観光開発株式会社、株式会社ホスピタリティオペレーションズ、株式会社叶匠寿庵、TBC、B-LINE 合同会社(oliss)、株式会社ステラメイトジャパン、西大津歯科医院、サクラ堂歯科医院、株式会社アダムス医療、歯科コーラルクリニック</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために1年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>（令和3年度卒業生に関する令和4年3月31日時点の情報）</p> <p>TOPIC6級 1名、TOPIC5級 11名、TOPIC4級 7名、TOPIC3級 7名、TOPIC2級 3名</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>韓国・朝鮮語学科においては、進学者の9割近くが韓国外国語大学校・培材大学校、慶熙大学校、崇実大学校、明知大学校、全北大学校・釜慶大学校等への編入留学。国内での編入学は平安女学院大学と帝塚山学院大学となっている。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	5人	6.3%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>学校生活不適應、進路変更(就職)、成績不良など。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>カウンセリングルームを設置し、毎週カウンセラーによるカウンセリングを行っている。また、学習面においては、担当教員が「Career Studies」の時間を通して、サポートしている。さらに、単位取得状況や出席状況が芳しくない学生には教員面接を随時実施、必要に応じて保護者も含め、三者面接を実施して家庭とも連携して対応している。出席や成績などはポータルサイトを通して保護者にも確認してもらっている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	東南アジア言語学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1845 単位時間／単位	465 単位時間 ／単位以 上	1380 単位時間 ／単位以 上	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1845 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	5人	0人	3人	11人	14人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業担当教員へのシラバス作成依頼時（毎年2月）に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。</p> <p>A⁺（100-90）4ポイント A（89-80）3ポイント B（79-70）2ポイント C（69-60）1ポイント D（59-0）0ポイント F：失格</p> <p style="text-align: center;">$\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$</p> <p>また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。</p> <p>所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>Career Studiesの授業で学生の学習目標および到達度を、担当教員が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	1人 (33.3%)	0人 (0%)	2人 (66.7%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために1年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 特になし			
（備考）（任意記載事項） 東南アジア言語学科においては、大学編入先は京都産業大学となっている。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルームを設置し、毎週カウンセラーによるカウンセリングを行っている。また、学習面においては、担当教員が「Career Studies」の時間を通して、サポートしている。さらに、単位取得状況や出席状況が芳しくない学生には教員面接を随時実施、必要に応じて保護者も含め、三者面接を実施して家庭とも連携して対応している。出席や成績などはポータルサイトを通して保護者にも確認してもらっている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程	日本語コミュニケーション学科(日本語教師養成クラス)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1845 単位時間/単位	465 単位時間/単位以上	1380 単位時間/単位以上	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1845 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 (内) 人		(23) 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業担当教員へのシラバス作成依頼時 (毎年2月) に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。
成績評価の基準・方法
(概要) 2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。 算出方法は以下の通り。 A ⁺ (100-90) 4ポイント A (89-80) 3ポイント B (79-70) 2ポイント C (69-60) 1ポイント D (59-0) 0ポイント F : 失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。
学修支援等
(概要) Career Studiesの授業で学生の学習目標および到達度を、担当教員が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	6人 (66.7%)	1人 (11.1%)	2人 (22.2%)
（主な就職、業界等） 株式会社エスアンドエス			
（就職指導内容） 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、日本語や副専攻として修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために1年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOPIC3 級取得者 1名、TOPIC2 級取得者 1名			
（備考）（任意記載事項） 日本語コミュニケーション学科においては、大学3年次に編入する卒業生が約7割を占めている。主な大学編入先としては、京都外国語大学、平安女学院大学、帝塚山学院大学、大阪経済法科大学などとなっている。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	1人	3.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更(就職)、進路変更（進学）、体調不良など。		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルームを設置し、毎週カウンセラーによるカウンセリングを行っている。また、学習面においては、担当教員が「Career Studies」の時間を通して、サポートしている。さらに、単位取得状況や出席状況が芳しくない学生には教員面接を随時実施、必要に応じて保護者も含め、三者面接を実施して家庭とも連携して対応している。出席や成績などはポータルサイトを通して保護者にも確認してもらっている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	日本語コミュニケーション学科（留学生）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1845 単位時間／単位	465 単位時間 ／単位以上	1380 単位時間 ／単位以上	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1845 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人（内）		（47）人	41人	1人	7人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業担当教員へのシラバス作成依頼時（毎年2月）に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。</p> <p>A⁺（100-90）4ポイント A（89-80）3ポイント B（79-70）2ポイント C（69-60）1ポイント D（59-0）0ポイント F：失格</p> $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ <p>また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>Career Studiesの授業で学生の学習目標および到達度を、担当教員が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	4人 (33.4%)	3人 (25.0%)	5人 (41.6%)
（主な就職、業界等） くら寿司株式会社、株式会社セルテック			
（就職指導内容） 日本語の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、本人の適性や能力を加味して指導を行っている。特に留学生ということで、就労ビザの取得が難しい業界や本人の学歴によって就労ビザが取れない現実もあるので1年次春学期より、CSの授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、ジョブパークなどの留学生支援センターとも連携して、専門学校を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） （令和3年度卒業者に関する令和4年3月31日時点の情報） 日本語能力試験N1 2名、N2 5名			
（備考）（任意記載事項） 日本語コミュニケーション学科留学生クラスの進学先は、京都外国語大学、平安女学院大学、大阪経済法科大学となっている。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	3人	6.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更（進学）、帰国、経済的理由など。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 留学生は、早期の進学、就職を希望している学生が多いため、1年次から大学や大学院を受験して、合格後に退学して進学するケースが多く、それらが中退卒を引き上げている。 留学生については、担当者が出席状況の確認を行いながら、学習状況などをチェックしている。また、個人面談を通してアルバイトの状況や実家からの送金の状況など把握した上で、個人の理解を深めながら、欠席などが連続した際には、注意を促すなど対応をしている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
英米語	150,000 円	950,000 円	137,520 円	
中国語	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
韓国朝鮮	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
日本語	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
東南アジア	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
留学生	150,000 円	650,000 円	135,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学校法人京都外国語大学の奨学金として、総長奨学金 (貸与)、森田基金奨学金 (給費) がある。また、入学時に特待生試験 (英語・国語) の結果による学費減免、語学検定制度による学費減免、社会人・学士・短期大学士・専門士などの受験生に対する減免などを実施している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校ホームページの情報公開ページ (https://kccfl.kufs.ac.jp/school_info01/information/) に公表		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>本校が行った自己点検評価結果について、学校に関係の深い方たち (関係者として、「関連業界関係者」「卒業生」「教育に知見を有する者」「その他校長が必要と認める者」の区分から各 1 名を選出) で構成した学校関係者評価委員会を 2019 年度に設置し、当該専門分野における実務教育に関する知見を生かし、「学校経営の改革方針が適切か」「自己評価が適切に行われているか」「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方針が適切か」などについて評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善が図れているか、改善方策や改善時期等について適切に実行されたかを継続的にチェックできる体制を整えた。</p> <p>なお、評価を踏まえた改善方策については、校長を最高責任者として、教育に関することは副校長、施設設備することは事務長がそれぞれを統括して、早急に改善できるように、関係教職員と改善策・対応策を検討して、実施時期を設定し、実施する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社顧問	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	関連業界関係者
株式会社代表取締役	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	卒業生
私立高校・講師	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	教育に知見を有する者
学校法人職員	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	校長が必要と認める者

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校ホームページの情報公開ページ (https://kccfl.kufs.ac.jp/school_info01/information/) に公表
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://kccfl.kufs.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人 京都外国語大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		104人	110人	－人
内 訳	第Ⅰ区分	68人	69人	
	第Ⅱ区分	18人	25人	
	第Ⅲ区分	18人	18人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				104人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	－ 人	－ 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	0 人	0 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当	人	0 人	－ 人
計	人	－ 人	－ 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	－ 人	後半期	－ 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	29人	28人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	一人	0人
計	人	29人	28人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。